



## 第14回久喜市生涯学習研修大会

# 「まなびすとフォーラム」報告書

開催日：令和8年6月6日（土）

会 場：久喜市鷲宮行政センター生涯学習施設

大会テーマ：「次世代へつなぐ、地域・学校の新しいかたち」



### 生涯学習研修大会概要

1. 開会式・来賓あいさつ
2. 主催者あいさつ
3. グループでの討議結果の要約
4. アンケート結果のまとめ
5. 講評とあいさつ

添付資料 グループ討議結果

共催：久喜市生涯学習推進会議・久喜市生涯学習推進部・久喜市教育委員会

製作・発行：久喜市生涯学習推進部

## 1. 開会式・来賓あいさつ



久喜市長  
貴志 信智 様



久喜市議会議長  
春山 千明 様



埼玉県議会議員  
梅澤 佳一 様



埼玉県議会議員  
石川 忠義 様

## 2. 主催者あいさつ

久喜市生涯学習推進会議推進部委員長 井上 日出子

### 要約：次世代へつなぐ新しいかたち

#### 第14回「まなびすとフォーラム」開会のあいさつ

皆様こんにちは。第14回まなびすとフォーラムにご参加頂き、ありがとうございます。ご来賓の皆様、ご多忙中にも関わらず、ご臨席頂きありがとうございます。

今回は、初めて中学生の皆さんにご参加して頂きました。よりフレッシュな意見が伺えることと思います。このフォーラムは、旧久喜市で発足し、20年以上続いています。久喜市にとっても、伝統と歴史のある研修大会です。以前は、市内各高校様にご協力頂き、校内を大会会場とさせて頂きました。平成30年(第9回)では、北陽高校様の校内会場で参加者227名(22グループ)と大勢の参加者で、貴重な意見交換がありました。令和5年(第11回)より、この「まなびすポット」での開催となっております。さて、今回のテーマは「次世代へつなぐ、地域・学校の新しいかたち」です。近年、世界中が目まぐるしく変化する中、生成AIの活用、デジタル化(ペーパーレス)等が進んでおり、人との関わりが、より希薄化になるのではという懸念もあります。

令和8年度、久喜市も4月に貴志市長が誕生し、新しい市政が発足しました。行動力と熱意で、「久しく喜び合う住みやすい街」へ、より良い久喜市に発展する事と期待し、次世代を担う子供たちに、学校教育のみならず、地域社会の連携で新しい形を考えこれからの厳しい社会を生き抜く力を育てていくことが求められます。

そこで、それぞれの立場の皆様、活発な意見交換をして頂き、ご意見・ご提案を期待しております。本日の貴重なご意見・ご提案は、市長にご報告に参り、行政への一助となればと思っております。よろしくお願い致します。これで開会の挨拶とさせて頂きます。

### 3. フォーラム内容

#### 1) 討議風景



#### 2) 討議結果発表風景



### 3) グループでの討議結果の要約（キーワード集）

|           | 1                    | 2                  | 3              | 4                      | 5                                       |
|-----------|----------------------|--------------------|----------------|------------------------|-----------------------------------------|
| 1<br>グループ | 学 校                  | 地 域                | 新しい形のアイデア      | 福 祉                    | 課 題                                     |
|           | 地域の方と関わる機会を増やす       | 地域イベント参加           | 部活動中高一緒に行く     | 町全体が子供を見守る仕組み          | 地域、学校、PTAが次世代へつなぐ仕組み作り                  |
|           | 小中学校の統合を進める          | 交流の場を増やす           | 高大と子供達一緒に行事    | 子供と共に成長できる場所作り         |                                         |
|           | オープンスクールを増やす         | 小中学校地域での合同企画       | 小中サポート交流会      | 学校にいけない子、発達障害児への支援     |                                         |
| 2<br>グループ | 学 校                  | 地 域                | 現 状            | 取 り 組 み                | 課 題                                     |
|           | 地域プロジェクト型学習          | 地域交流の減少            | 久喜市の特色が無い      | 登下校時の挨拶                | 同じ考えの人々が集まる場所作り<br>マッチングアプリ<br>SNSを市で出す |
|           | 学校運営協議会が地域の声を聴く      | 自治会の減少             | 大人が触れ合う場所が無い   | 学校と地域の繋がり、まず大人が繋がる     |                                         |
|           | 中高主体のイベント作り          | 学校と繋がる場所作り         | ゴミ問題の周知        | 皆が一緒に学べる企画             |                                         |
| 3<br>グループ | 学校から地域へ              | 地域から学校へ            | ボランティア         | 現状取り組み                 | 課 題                                     |
|           | 先生と生徒の考えが合わない        | 地域、風紀とは何か考える。      | 行きやすい学校        | ゆうゆうプラザ参加              | 地域、学校、生徒、共通の意見交換の場作り                    |
|           | 価値観の相違               | 学校との理解を深める         | 父兄の理解          | 相互の挨拶が大切               |                                         |
|           | 令和の学びを考える。ITの活用等。    | 学校に対する意思表示         | ゆうゆう参加         | 子供の主体性を重じる。            |                                         |
| 4<br>グループ | 学 校                  | 地 域                | ボランティア         | 解決策として                 | 結 論                                     |
|           | 頑張りたい人が、頑張れない、部活動の朝練 | 働く親が多く、子供の触れ合いが少ない | 保護者の地域参加       | 行政の力を借り、地域と子供のTikTok発信 | 地域と役に立つ事を一緒に参加する取り組み                    |
|           | 生徒会活動で、外遊びを増やす       | 地域参加の楽しさを伝える       | 見守り、挨拶         | 中学貢献部が小学校に行き、教育課程にする   |                                         |
|           | 学校行事を、地域全体で参加        | 高齢化で自治会活動低下        | 環境整備、除草作業等     | SNSを作り、PTAと学校を、つなぐ     |                                         |
| 5<br>グループ | 学 校                  | 地 域                | ボランティア         | 環境地域                   | 課 題                                     |
|           | 学校生活において、いじめを減らす     | 町の賑わい              | 人材育成           | 教育と、ITのあり方             | 継承と創造、これまでの良さを生かし、新たな価値を作る。             |
|           | 生徒への先生の寄り添い          | 地域に目を向けた新教科        | 同氏を集めるボランティア活動 | 中高生の活動しやすい環境           |                                         |
|           | 小中学生との交流の場           | 地域の特産品             | 地域学校融合仕組み作り    | 陸上競技場・芝のサッカー場・硬式野球場等   |                                         |

|           | 1                             | 2                        | 3                         | 4                                                                                                   | 5                                                                            |
|-----------|-------------------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 6<br>グループ | 学 校                           | 学 校⇄地 域                  | 地域歴史文化                    | 人から人                                                                                                | 課 題                                                                          |
|           | 情報発信。学校から地域へ<br>生徒会アカウントSNS発信 | 包括的、見守り隊の<br>結成          | 小中で地域について<br>学ぶ           | 久喜住人でないと、<br>久喜愛が育ちにくい                                                                              | 地域として、学校に<br>関わっている人の固<br>定化。（特定の人に<br>限られている）                               |
|           | 学校から地域へ、情報<br>発信の仕方           | 地域学習、小中だけで<br>なく、高校も必要   | 地域の魅力を探し、郷土愛<br>を生む。偉人、民謡 | 地域を支えるボラン<br>ティアの育成                                                                                 |                                                                              |
|           | 安心安全な学校                       | 学校と地域、一緒に<br>育てる         | 異文化の取り入れ方                 | 職業体験を増やす                                                                                            |                                                                              |
| 7<br>グループ | 学 校                           | 社会・学校・家庭での<br>連携         | 安全面                       | 体 制                                                                                                 | 結 論                                                                          |
|           | 街灯が少ない                        | 見通し、風通しの良い地域<br>がいつもいる学校 | 部活動での強いモチ<br>ベーションのやり場    | 物事が決まる工程が<br>見える体制                                                                                  | 下校時の見守りや、ボラン<br>ティア募集し、共通の目印<br>を付け、先生・生徒から見<br>やすくし、学校と地域の交<br>流ができ、新しい形になる |
|           | 下校面で不安                        | 自由に話せる場所作<br>り           | 少子化に伴う、部員<br>数の減少         | 市立図書館の閉まる<br>時間が早く、読む力<br>が育たない                                                                     |                                                                              |
|           | 災害時の学校の役割<br>（食・水・トイレ）        | 子供達を守る体制強<br>化           | 地域の部活支援                   |                                                                                                     |                                                                              |
| 8<br>グループ | 現 状                           | 背 景                      | まとまりを作る仕組み<br>（やってみたいこと）  | 解決策                                                                                                 |                                                                              |
|           | コミュニケーション<br>の希薄化             | 地域との関わり（子供<br>と地域との繋がり）  | ゴミ拾いボランティア                | ・ ボランティア手帳の活用<br>・ 地域と学生の共同参観、ボランティア<br>・ 近隣中高校へ、ボランティア募集<br>・ 地域の人と、コミュニケーションを増や<br>すため、学校が意欲的になる。 |                                                                              |
|           | 協力者の固定化・限<br>定化               | 自治会のあり方（高<br>齢化、区長制度）    | 子供食堂の手伝い                  |                                                                                                     |                                                                              |
|           | 運営の担い手不足                      | 若い世代と、どこで繋<br>がるか        | 地域の見守り<br>（中学生も参加）        |                                                                                                     |                                                                              |

全グループの発表内容と、発表資料を基に、一覧表に致しました。

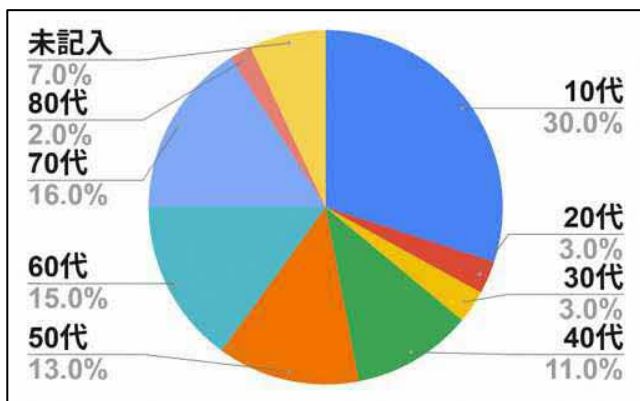
幅広い年齢層と、各分野の方の意見から、全グループとも学校と地域の新しい形の共通点は、社会・学校・地域での連携作りが、大切との考えでした。

学校の働き方改革、地域、家庭、の関わり方など、全ての主体が情報発信を密にすることがこのテーマのキーワードでした。

発表の様子を貴志市長をはじめ、各議員の皆さまにご臨席頂き、発表の内容に対し、市長様より市で出来る事を、即決、解答頂けた事は、今後の「まなびすとフォーラム」への励みになりました。

## 4. アンケート結果のまとめ

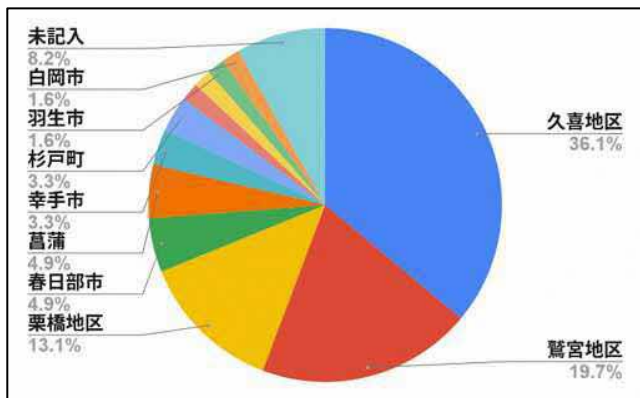
### 1. 参加者の年代



10代が全体の30%と多くのご参加をいただきました。中学生・高校生といった若い層の参加が、フォーラム活性化の大きな原動力となりました。

40代～70代の各世代からも11%～16%の安定した参加があり、学生からシニア層まで、特定の層に偏らない幅広い世代にご参加いただきました。

### 2. 参加者の居住区

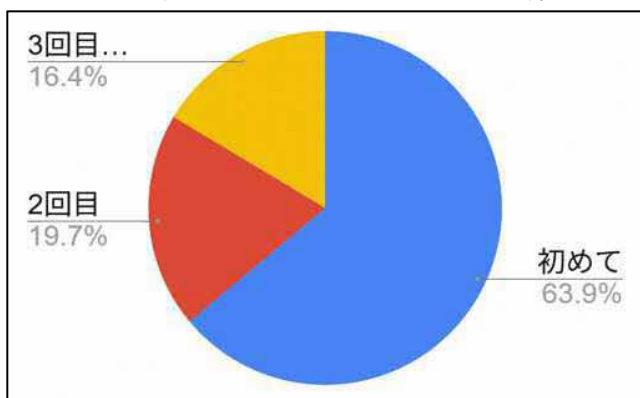


※上記判例に示されていない地域は越谷市・古河市

久喜地区、鷺宮地区、栗橋地区、菖蒲地区を合わせた「久喜市内」からの参加者の合計は約74%でした。

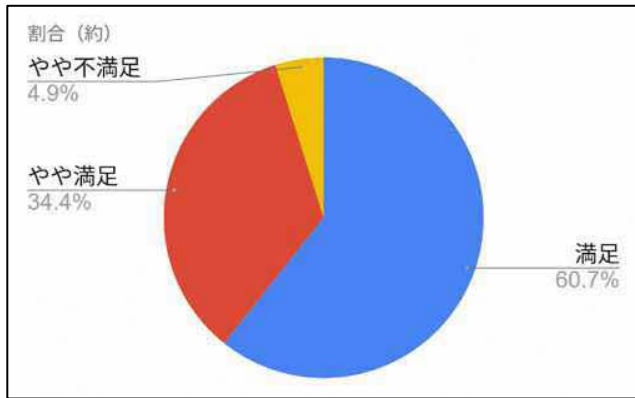
また、周辺自治体より久喜市への通勤者・通学者として、本フォーラムに参加してくださった方々は、未記入を含めて全体の約4分の1を占めました。

### 3. 参加者のフォーラム参加回数



初めてフォーラムに参加していただいた方々63.9%と、半数以上を占めています。また、市民大学や高齢者大学からの参加者は2回、3回目以上と継続してご参加いただいています。3回以上参加されている方の平均値は「約8回」であり、長くフォーラムに参加し、久喜市について議論してくださっている方々が、地域の生涯学習活動を深くご理解し、支えてくださっています。

#### 4. フォーラム参加に関する満足度



「満足」と「やや満足」を合わせた肯定的な評価が全体の **95.1%**を占め、大半の参加者から高い評価をいただくことができました。

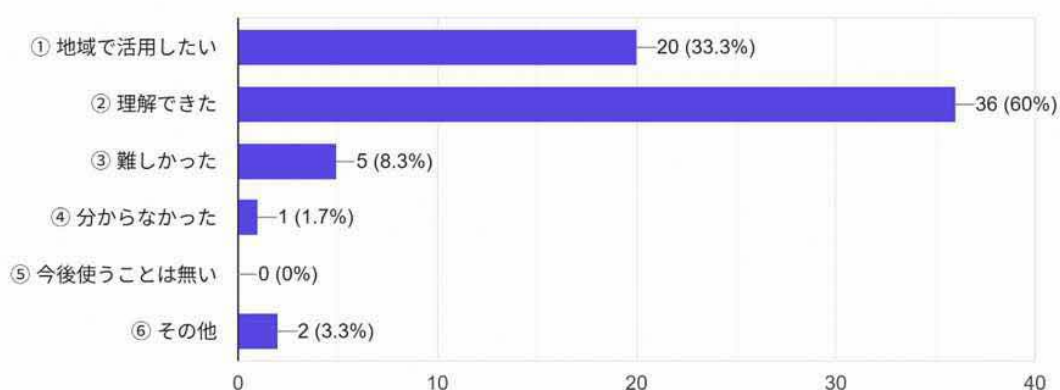
一方で、全体の **4.9%**からは「やや不満足」との評価も受けています。自由記述では「グループ協議形式のマンネリ化」や「具体的な解決策が見つからなかった」といった、運営方法やディスカッションの深掘りに関する貴重なご意見・課題が寄せられました。参加いただいた皆様の満足をその先の生涯学習活動へと繋げていけるよう、これらのフィードバックを真摯に受け止め、フォーラムのあり方や協議方法について今後もさらなる工夫と改善を重ねてまいります。

#### 5. ワークショップの実施方法

4.

今大会テーマ「次世代へつなぐ・地域・学校の新しい...ワークショップの実施方法について、いかがでしたか？

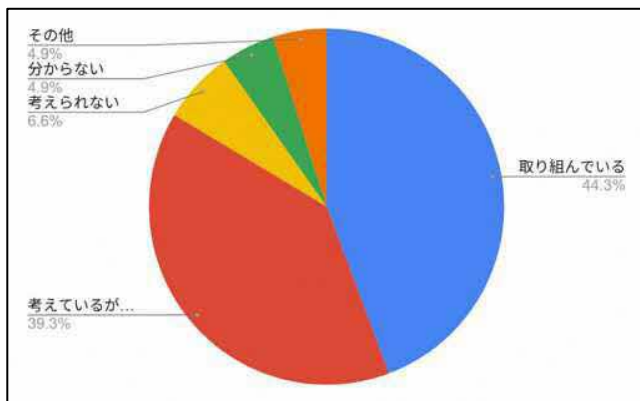
60 件の回答



今大会のテーマに沿ったワークショップの実施方法について、「理解できた（35 件）」と「地域で活用したい（22 件）」を合わせた肯定的な回答が **57 件**（全体の約 **88%**）を占め、総じて非常に高い評価を得られました。一方で、「難しかった」という回答は **5 件**ありました。これは参加した中学生・高校生などの若い世代にとって、地域のことを大人と対話するという経験が初めてであったケースが多いためと考えられます。しかし、当日の彼らが発揮した力は非常に大きく、フォーラム全体の活性化において欠かせない原動力となりました。

なお、「その他（2 件）」に寄せられた具体的な意見としては、グループワークにおける「合意形成が難しい」や今大会テーマに深く共感し、「学校現場でも活用したい」といった今後の実践に向けた意欲的な提案もみられました。

## 6. 参加者の生涯学習に対する考え



生涯学習に対する意識を調査したところ、「既に取り組んでいる」と「考えているが今後取り組みたい」を合わせた前向きな回答が全体の83.6%を占める結果となりました。

回答の傾向を年代別データと掛け合わせると、「既に取り組んでいる」という回答は主に60代～70代のシニア層に多くみられました。

一方で、「今後取り組みたい」という回答は10代から50代の幅広い層に多くみられ、若い世代からミドル層にかけても生涯学習への関心や意欲が非常に高いことが窺えます。

なお、「考えられない」「分からない」「その他」といった、現時点で具体的なイメージを持っていない層は全体の1割強に留まりました。

## 記述いただいたご意見

### ①【中高生の参加・多世代交流について】

- ・みなさん協力的で素晴らしかったです。この輪が広がるとよいです。
- ・いろいろな年齢層の方がいて、自分とは違う考えを持った人がいて、とても勉強になりました。また参加してみたいです。
- ・色々な人の意見が聞けて、いい経験になりました。
- ・今回中学生の参加があり、とても有意義だった。学生の意見が勉強になりました。
- ・若い頭脳に敬服しました。
- ・色々な方の意見を聞けて、有意義な時間でした。素晴らしい会でした。ありがとうございました。
- ・すごく勉強になったので、また参加したいと思いました。また、このように地域の方々に集まることは、とても大事なことだと思いました。このような場を沢山設けるべきだと思いました。いろんな意見があって面白かったです。私は今より、少し昔に生まれて過ごしてみたかったです。学校に帰って、みんなに話します。ありがとうございました。

### ②【グループワークの運営・進め方について】

- ・世話役の方が、もう少しグループに任せていただいてもよいと感じました。
- ・サポートスタッフがまとめる方向で、アドバイスがあり、良かった反面、自由な意見が出にくい感じがありました。
- ・グループの話し合いの際、一人一人が話す時間制限を設けた方がいい。もう少し若い世代の意見をうまく聞けるとよかったですと思いました。
- ・世代間の格差がディスカッションの中で（内容ではなく、進め方という意

味で) 課題があったように思えた。生徒さんに配慮したり、発言を促したり、意見をもっと自由に尊重してあげたかった。そこで、前提条件として、内々に統一しておくとういと思った。

- ・テーマが少し大きくて、まとめるのが難しい気がします。

### ③【市政や地域への提言について】

- ・本日のテーマは難しい内容でした。今後、学校と地域、家庭をつなぐこれまでの伝統と新たな学びによる人材の育成やシステムの構築が必要と感じました。新教科の地域展開を進めていく。
- ・子どもたちの状況、親が忙しい等、問題が山積みだが、今回感じたことは、地域の方々と関わりを持つと、よりお互いの関係性ができて、より久喜市を盛り上げることができるのではないかと期待が持てました。
- ・世代間の考えのギャップをうまく埋めていけるような久喜市の魅力を沢山発見することが、まず必要であると思いました。
- ・福祉についての意見が上がったので、今後話し合えたらよいと考えました。このような機会を下さり、ありがとうございました。
- ・貴志市長の方針、ゴミの減量化は、繰り返し繰り返し伝えてほしい。市の特色が何色か(?) 不透明です。
- ・地域活動について、国内の例も大事ですが、海外の例も調査し、広報等で発表、公表してほしい。
- ・中・高生がいるのはとてもよし。ここに参加する人は、高大、市民大学ではなくコミ協のメンバーなど、影響力のある方がよいと思う

### ④【その他】生涯学習の現状・参加のきっかけ・個人の活動

- ・きわめて低調とお聞きしましたので、参加いたしました。その割に結構参加者がありました。この火は絶対に消してはなりません。
- ・高齢者大学で歩こう会に入って活動しています。川越に行った時に感じたのですが久喜の史跡などを歩こう会で歩こうと思いますがもう少し分かりやすくしてあると良いと思います。
- ・市民大学2年生なので、講座の受講を受けているので生涯学習の理解は、少しずつ深まっています。

本フォーラムは多世代が久喜市の未来を熱く語り合う貴重な場となりました。特に中高生の新鮮な意見とリピーター層の深い知見の融合は本市の大きな財産です。「運営方法の改善」という貴重なご提言も真摯に受け止め、今後の生涯学習活動へ還元してまいります。

熱心にご議論いただいた参加者の皆様、ご協力いただいた関係皆様に心より深く感謝申し上げます。

## 5. 講評とあいさつ

久喜市生涯学習推進会議議長 影山悦夫

皆様お疲れさまでした。そして、このフォーラムにご参加くださいます。ありがとうございます。心より感謝申し上げます。講評ということですが、私から申し上げるまでもなく、非常に有意義で得るものが多かった場になったのではないのでしょうか。

先日、宇都宮市でスポーツ推進委員関東大会がありました。そこで 2012 年ロンドンオリンピックの銅メダリストで、2014 年世界選手権東京大会で銀メダルを獲得した平野早矢香（ひらのさやか）氏のお話を聞く機会に恵まれました。平野氏は中学校に進学する際、地元ではなくご両親を説得して、単身仙台の私立中学校に入学しました。その訳は、「卓球が強くなり日本代表になりたい」という強い信念でした。全てにおいて平野氏は、自分で決定していったようです。そこで、平野氏は『結果については全て納得できる。全て自分で決めて実行してきたから……。ただ、必死に目標に向かって努力はしてきた。』と語っており、確固たる信念というか、芯のある生き方があったようです。

余談ですが、平野氏の話の中に、柔道家でオリンピック 3 連覇をした野村忠弘氏のエピソードがありました。野村氏は「オリンピックでの悔し涙を流す人の気持ちがわからない……」と言ったそうです。なぜなら、出場した全てのオリンピックで金メダルに輝いたからだそうです。

また、物理学者のアインシュタインは『誰かのために生きてこそ人生には価値がある……』と言ったそうです。つまり、自分だけの幸せを追求するのではなく、他の人々のために尽くすことで真の充実感も得られるということであり、自分自身の持っている力で人を幸せにするということだそうです。

ここに集われた皆様の、意義ある多様なご意見とアイデア、そして意欲溢れるお考えにただただ敬服するのみです。今日の学びをそれぞれの場に持ち帰り、それぞれの活動に活用してくださること、そして皆様自身の持っている力で周りの人を幸せにさせていただくことを願っております。

本日はご参加くださり本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

## 添付資料：グループ討議結果

|     |                 |     |
|-----|-----------------|-----|
| 1)  | <u>グループ発表資料</u> |     |
|     | <u>目次</u>       | ページ |
| 第 1 | グループ            | 1 1 |
| 第 2 | グループ            | 1 1 |
| 第 3 | グループ            | 1 2 |
| 第 4 | グループ            | 1 2 |
| 第 5 | グループ            | 1 3 |
| 第 6 | グループ            | 1 3 |
| 第 7 | グループ            | 1 4 |
| 第 8 | グループ            | 1 4 |
| 2)  | フォーラム統計資料       | 1 5 |



討議は、10～70 歳代の幅広い年代の 11～12 人のグループ構成で行いました。異なる考え、意見を世代間で共有できたでしょうか？

第14回 次世代へつなぐ・地域・学校の新しいカタチ

課題

- ① 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ② 地域・学校の関係が弱体化している
- ③ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ④ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑤ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑥ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑦ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑧ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑨ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑩ 地域・学校の関係が弱体化している

学校

新しい形のアイデア

- ① 地域・PTA・学校が連携して取り組む
- ② ボランティアで地域の活動に関わる機会を増やす
- ③ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ④ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑤ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑥ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑦ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑧ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑨ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑩ 地域・学校の関係が弱体化している

福祉

- ① 小児科に何らかの病気を患った子どもが増えている
- ② 高齢者の孤立化が進んでいる
- ③ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ④ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑤ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑥ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑦ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑧ 地域・学校の関係が弱体化している
- ⑨ 小規模の学校は閉校の危機に瀕している
- ⑩ 地域・学校の関係が弱体化している

1班  
司会 内山  
発表 加藤・近藤・山口  
まとめ 松村  
松橋・芹澤・白石・岡根・伊豆・山川

学校⇔地域  
交流の機会を増やす!

次世代へつなぐ・地域・学校の新しいかたち

学校の課題

現状

解決策は?

2 班  
司) 藤咲  
副) 田沢  
次) 麻生  
菊地  
関谷  
松井  
加藤  
中島  
橋本  
磯野

地域とは何か？

風紀とは何か？

解決策

3グループ

問題

可発表

関係増田  
関渡辺  
関日高  
関須之内  
関番場  
関角田  
関入江  
関谷

今後の課題・結論

地域・学校の生徒教員

↓

3者の立場からの共通の意志表示の場を作る。

課題 次世代へつなぐ地域・学校の新しい形

4班 (原)金子河野 磯田間口 諏訪内本島崎

解決に向けて

背景

先生も生徒も忙しい

結論：地域の役に立つ、一緒に出来る取り組み

[illegible][illegible]

[illegible]

8班「次世代へつなく」地域学校の新しいカタチ

現状

- ユウカシの希薄化
- 地域でのユウカシの減少
- 協力の固定化・限定化
- 通学区域の拡大
- 不登校
- 高齢化

背景

- 後進時代
- 地域の関わり
- 地域に集まる通学路の減少
- 地域に集まる関わり
- 若い世代とどうつながるか

解決策

- 地域の新しいコミュニティの形成
- ボランティア活動の活用
- 地域の人と関係の活用
- 学校で居る子どもたちの活用
- 学校で居る子どもたちの活用
- 学校で居る子どもたちの活用

やりたい!!

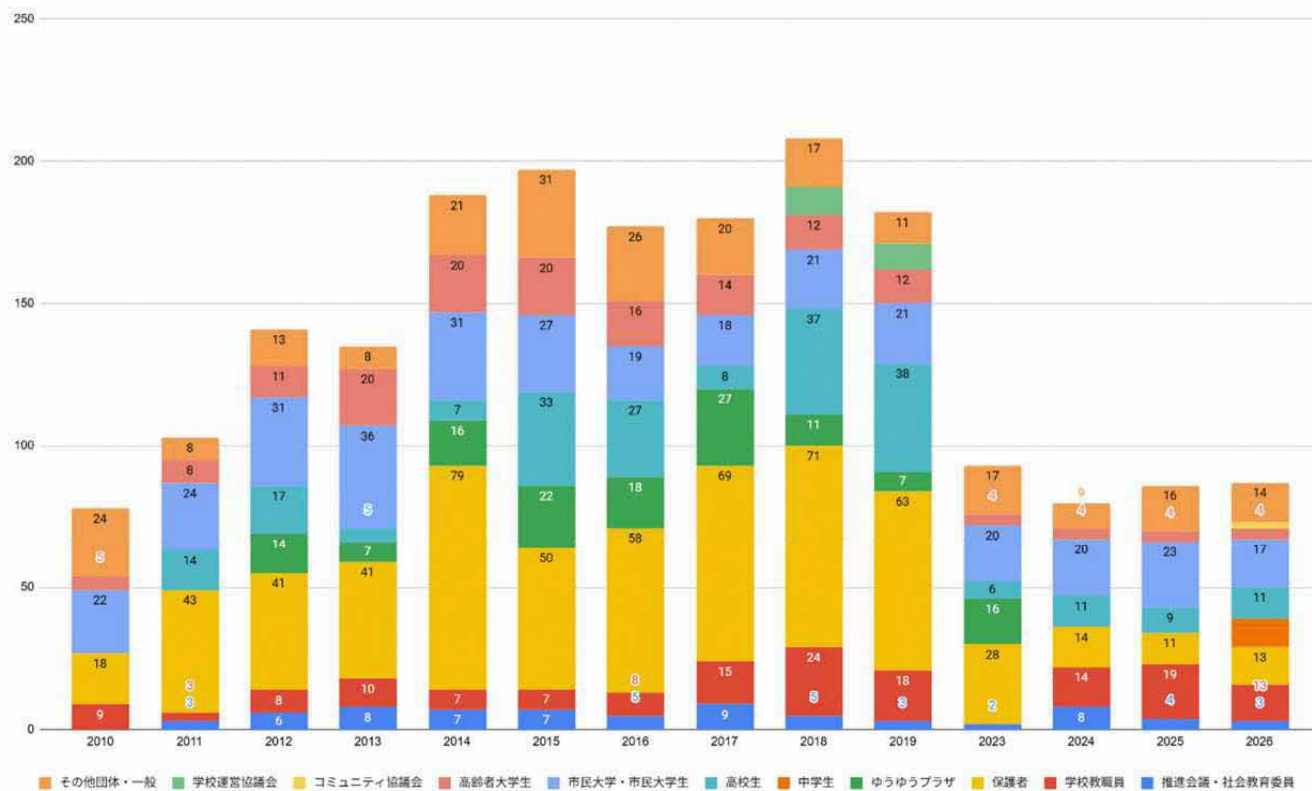
- ゴミひろい
- 地域祭
- 子供食堂
- 雑草草

(司)長島  
(発)大森  
渡邊  
小室  
菅原  
増田  
星  
加我  
渡邊

おもしろい!!

## フォーラム統計資料

### 第14回まなびすとフォーラム：年度別所属団体参加人数推移



## フォーラム討議・発表風景





## 編集後記

第14回「まなびすとフォーラム」にご参加頂き、また、ワークショップにおいて、貴重なご意見を頂きありがとうございました。

今回の「まなびすとフォーラム」では、初めて中学生の参加をお願いいたしました。世代を超えた新鮮な視点が交わることで活発な議論が生まれ、「生涯学習」をより発展的に推進するための力となりました。幅広い年齢層のご意見は久喜市の発展につながると思います。

生涯学習推進部委員、生涯学習課の方々のご協力により、第14回の報告書が完成致しました。このような生涯学習の推進を持続可能なものにしていくために、今回の資料や、スキルを活かしつつ、皆様が地域での推進力となり、今後とも様々な場面で活躍して下さることを期待しております。

本報告書は、皆様に討議結果をそのままお届けし、将来に向けて考えて頂く材料を、正しくご提供することが大切だと考えて作成致しました。ぜひ今後の地域活動における振り返りや、新たな実践へのヒントとしてご活用ください。

最後になりますが、当日ご参加下さった皆様に改めてお礼を申し上げます。

第14回まなびすとフォーラム（学社連携部会）